
7号

リテス

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

7号

【Zマーク】

Z0750A

【作者名】

リテス

【あらすじ】

雪の降った日にプロポーズされた女性の話です。

クリスマスの翌日だった。

例年より少し遅めの初雪が降った日。

街一面に少しだけ雪が積もった日曜の夜に、いつにも増して“いきなりな”チャイム。

ドアを開けると仕事で会社のはずの彼がいた。

日曜に夜遅くまで仕事があるからと、昨日のディナーの後もすぐこの別れたのに。

「え？ なに？ どうしたの？」

彼は黙つたまま小さな箱を差し出す。
プレゼント用のリボンも巻かれている。

あれ？ 今日記念日だけ？ 付き合って4年。

付き合い始めたのは夏だったし、私の誕生日はまだ先。
誰か他の女の誕生日と間違てるのかも（怒）彼が開けろと叫ぶので、怒りをグッと堪えてゆっくり開けてみる。
小さなダイヤの付いたリング。

「7号。安物だけど…。結婚してくれないか
昨日はそんな素振り全然してなかつたのに…。
・・・？」

よく見ると、玄関の前は彼の足跡でいっぱいだった。

そういうえば、彼の耳が真っ赤になつてゐる。

どうやらチャイムを押すまでずいぶん長く玄関の前でうらわりしていたらしい。

いい氣味だ。

私なんか何年待つたと思つてるんだか（笑）　迷つてるふりをしてたつぱり時間をかけた後、返事をする変わりに、リングを左手の薬指にそそとはめた。

月明かりに照らされたリングはひんやりと冷たかった。

後で聞いた話だと、彼は雪が降つたらプロポーズするつもりだったらしい。

ゆ、優柔不斷。少し早まつたかしい。

(後書き)

皆様読んで頂いてありがとうございます。感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0750a/>

7号

2011年1月5日03時26分発行